

暑すぎるから...インドア避暑経済がアツい 映画やデリバリー人気

2025/7/21 11:00 | 日本経済新聞 電子版



インドアゴルフは猛暑を避けて楽しむ需要を取り込んでいる＝ワイルドシェアリング提供

6月から続く記録的な暑さによって、涼しい屋内で過ごすインドア消費が活況を呈している。熱中症のリスクを避けようと、映画館や屋内型の遊び場など空調の効いた施設に人が集まる。飲食配達の利用も目立つ。猛暑による屋外での消費のマイナスを「避暑経済」が補っている。

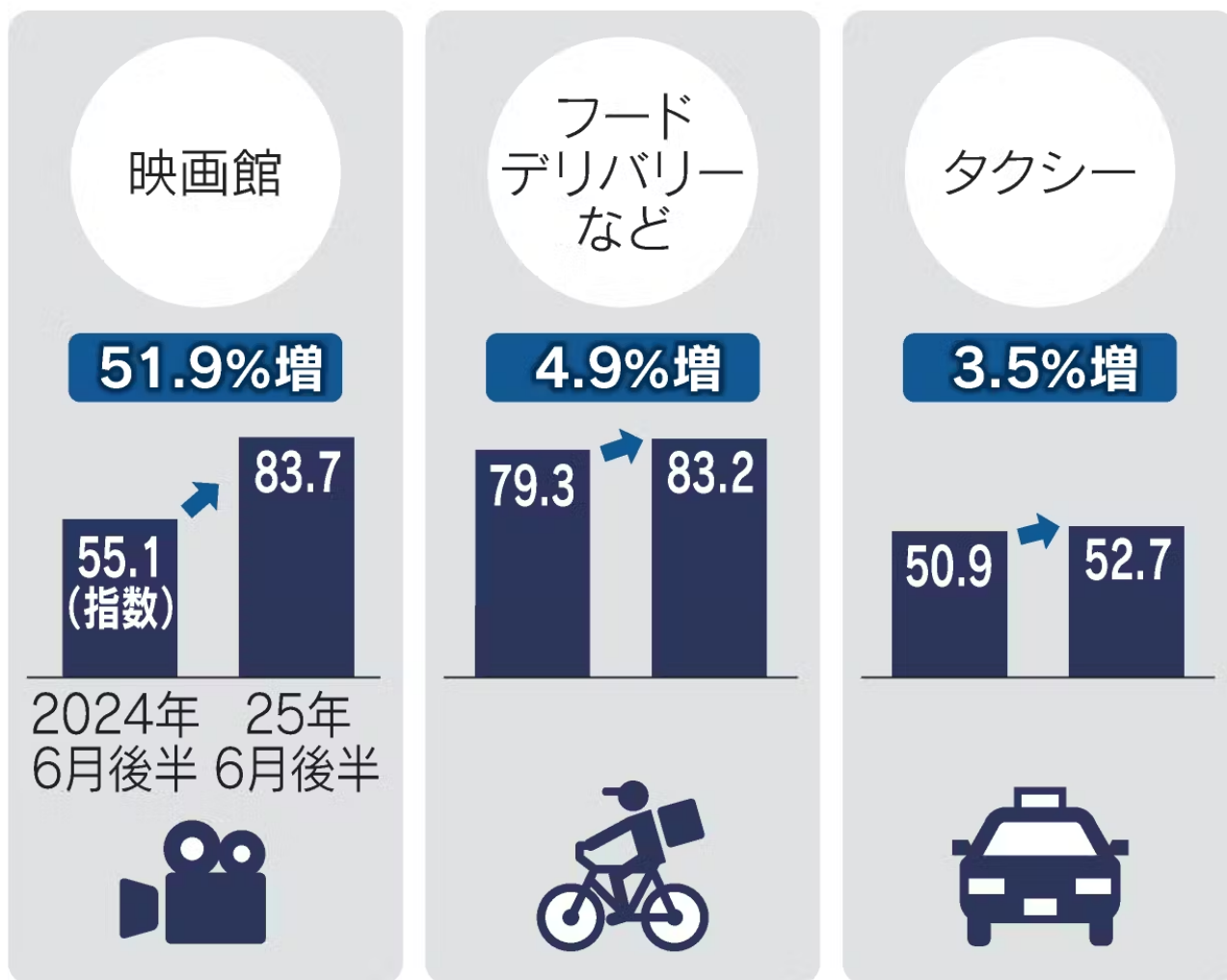
ナウキャスト（東京・千代田）とJCBがクレジットカード決済額をもとに算出する「JCB消費NOW」によると、映画館の消費額は6月後半に前年同期比で51.9%増となった。6月前半（56.0%増）から高い伸びが続いた。歌舞伎の世界を描く「国宝」の人気も重なっている。

暑さの中で長時間屋外に滞在すると熱中症のリスクが高まる。遊園地の消費額は6月後半は4.6%減少していた。外出先は冷房が効いたインドアが選ばれやすい。

横浜市に住む30代女性会社員は、6月に子どもたちをつれて屋内型の動物園「アニタッチみなとみらい」を訪れた。「できれば外遊びもしたいけど、公園は滑り台など遊具が熱くなっていて危ない。屋内

施設は授乳室などの設備が整っている点も魅力だ」と話す。

暑さをしのぐ消費が活況だ



(注) 出所はJCB消費NOW、2016年4月後半＝100

大型複合施設のサンシャインシティ（東京・豊島）の6月の来館者数は計測を始めた1985年以降で最多となった。60階にある展望台の入場者数も前年同月比で5%ほど増えた。一部の施設は夜間の営業を延長するなどして需要を取り込んでいる。

全国22カ所でインドアゴルフ施設「GOLF NEXT 24」を展開するワймシェアリング（東京・新宿）は夏場の稼働率が通常期より1～2割ほど高いという。今年は新たに7～8月の月会費を無料にするキャンペーンを打ち出して集客増を狙う。

「JCB消費NOW」によると、フードデリバリーを中心とした飲食料品の電子商取引（EC）消費額は6月後半は名目で前年同期比4.9%増加した。外食は減速傾向にあり、焼き肉は10.4%減少していた。

東京都墨田区在住の女性会社員（29）は6月後半に2週間で10回、フードデリバリーサービスを利用した。自宅からは徒歩1分でコンビニに行けるものの、「暑い中、家から一步も出ずに買えるのが便利」と、お菓子や飲料もデリバリーで購入している。

暑すぎる夏は外出控えのほか、電気代高騰による節約志向の高まり、生鮮品の高騰などを招き、日本経済全体への影響も無視できなくなる。避暑ニーズが生む消費は、足元の景況感にも一定の下支えとなっ

ている。

内閣府がまとめた6月の景気ウォッチャー調査（街角景気）では「暑い日が続いたことにより、ふだんより利用者が多くなっている」（東北のタクシー運転手）との声があった。

6月は全国的に異例な暑さだった。気象庁によると、全国153の観測地点のうち122カ所で、月平均気温が6月として歴代1位の高温になった。関東甲信は7月18日に梅雨明けしたとみられる。西日本を中心に梅雨明けが平年より2～3週早かった地域もある。

7月も35度以上の猛暑日が相次いでいる。全国的な暑さは当面続く見通しで、猛暑を避ける「避暑経済」は今後も盛り上がりそうだ。

三菱UFJリサーチ&コンサルティングが東海3県の施設を対象に24年夏のレジャー動向を調査したところ、前年に比べて集客が増えた施設の割合は屋内型が72.2%だった一方、屋外型は29.4%にとどまり、屋外型を回避する傾向が目立った。猛暑や台風が影響したと分析しており、25年も猛暑となれば同じ傾向になる可能性がある。

【関連記事】

- ・ [ゴルフ「コソ練」に商機 無人の個室練習場を多店舗展開](#)
- ・ [「国宝」豪華キャストで見せる歌舞伎の世界 映画評9本](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.